コード No. 10423

Anti-
Titin-N (53A1) Mouse IgG MoAb

容量 : 100 µg

はじめに : タイチン(コネクチン)は、34,350 個のアミノ酸からなる横紋筋特異的に発現するタンパク質です。ヒトタイチンの分子量は 3,816kDa で、生体内に存在する最も大きなタンパク質として知られています。タイチンは筋原繊維の最小単位であるサルコメアの構造タンパクの一つで、アクチン・ミオシンの両フィラメントが収縮タンパクであるのに対し、弾性タンパクとして、収縮によって短縮したサルコメアの長さを元に戻す役割を担っています。タイチンは筋肉の損傷が起こると、カルパインやマトリクス・メタロプロテアーゼなどのタンパク分解酵素による分解を受けると考えられており、これまで血中あるいは尿中のタイチンフラグメントの存在が報告されてきました。 このうち尿中で検出されるタイチン N 端 26kDa の断片は、Duchenne 型 筋ジストロフィーの他、スポーツ医学、心疾患、NAFLD、サルコペニアなどの領域において新たに報告されており、筋肉の状態を反映する分子である可能性が示唆されています。本抗体は尿中タイチン N 端 26kDa の断片を検出する ELISA に用いることができます。

免疫抗原 : Recombinant Titin (1-200)

起源 : マウス×マウス ハイブリドーマ
(X63 – Ag 8.653 × BALB/c マウス脾臓細胞)

クローン名 : 53A1 サブクラス : IgG_1

精製方法 : ProteinA 精製

包装形態 : Dulbecco's-PBS 0.1 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 0.1mL 添加（この時濃度は 1mg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2～8°C 保存 5 年間安定
溶解後 -20°C 保存 2 年間安定

使用目的及び : ELISA

文献 : Maruyama N, Asai T, Abe C, Inada A, Kawauchi T, Miyashita K, Maeda M,Matsuo M, Nabeshima Y. Establishment of a highly sensitive sandwich ELISA for the N-terminal fragment of titin in urine. Sci Rep. 2016 Dec 19;6: 39375

株式会社 免疫生物研究所
〒375-0005 群馬県藤岡市中 1091-1
電話：0274-50-8666 FAX：0274-23-6055
E-mail: do-ibl@ibl-japan.co.jp
URL: http://www.ibl-japan.co.jp